

# PLAS POST

2023-2024

わたしたちは、取り残された  
子どもたちが前向きに  
生きられる社会を目指します





## 活動の御礼とご挨拶

今年もPLASの活動に温かいご支援と応援をいただき、心より感謝申し上げます。私は今年、ケニアの現場を訪れる機会に恵まれました。現地パートナーが地域の子どもたちに寄り添い、その子たちが希望を胸に進学や進級していく姿を目にし、みなさんのご支援の力強さを改めて実感しています。

今年12月、PLASはリブランディングを実施し、新たなスタートを切ります。これまでの“エイズ孤児支援”から“アフリカの子ども支援”へと活動の幅を拡げ、子どもたちの未来をともに創る団体として生まれ変わります。PLASのすべての活動は、支えてくださるみなさんの温かい想いのご支援なしには実現できません。引き続き、温かい応援をどうぞよろしくお願いします。



代表理事

**門田 瑠衣子**

Ruiko Monda

# 今よりもっと、自分を、世界を好きになれるように

アフリカで取り残された子どもたちが前向きに生きられる、それがPLASの目指す社会です。そのために、子どもたちと親一人ひとりに寄り添い、ともに歩んでいます。

子どもたちの未来をつくる活動を、地域みなさん、現地パートナー団体、スタッフ、支援者と、みんなで作っています。

あげるだけの支援じゃないからこそ、現地の人々が自ら道を切り拓いていく。少しずつ自信がついて、今よりもっと自分を、地域を、好きになる。そんな姿に勇気もらって、PLASに関わるみんなも明日を前向きに生きられる。Positive Livingな生き方が連鎖する明るい世界をつくりたい。

それがPLASの願いです。

## VISION

PLASがめざす社会

わたしたちは、取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指します。

## MISSION

PLASの使命

アフリカで取り残される孤児や貧困家庭の子どもたちが前向きに生きられるよう、地域社会と共に課題解決に取り組みます。

## アフリカでの活動一覧

現地の公的機関や国際的な支援団体の手が届きづらいラストワンマイルにも支援を広げています。

### ケニア

- 親子支援事業  
FLOWERプログラム HOPEプログラム BLOOMプログラム
- 性に関する教育事業  
SRHRプログラム
- 組織基盤強化事業

### ウガンダ

- 親子支援事業  
SHINEプログラム RISEプログラム
- 組織基盤強化事業

## ケニア 貧困地域のひとり親、65家庭が自立

ケニアのホマベイ郡のHOPEプログラム、FLOWERプログラムが終了を迎え、それぞれ農業や養鶏で生計を得る**65家庭**が卒業していきました。



ウガンダ

ケニア

ウガンダ・ケニアで現地パートナー団体が各家庭を訪問し、家庭の様子や養鶏・農業の様子などお話を聞きアドバイスを行いました。

## 家庭訪問を105回実施



# 活動のハイライト

## 2024年度の成果

ケニア

## 正しいSRHRの知識を

## 361名に届けました

SRHRプログラムでは**21名**のピアエデュケーターが育成され、同世代の地域の子ども・若者**340名**にSRHRセッションを実施しました。



ケニア

ウガンダ

## カウンセリングを

## 240回実施しました

HOPEプログラム2期、RISEプログラムなどで子どもと保護者へ個別カウンセリングをこれまでに3回ずつ、計**240回**行いました。さらに**320回**が予定されています。



# 日本 イベントを15回開催、129名が参加

本年度からボランティアイベント「プチPLA」を始めました。

「リアルでPLASに関心のある人と過ごせて楽しかった」や「日本にしながら気軽にサポートできることを知った」といったお声に励まされ、新しいイベントに挑戦することができました。



## 日本 ファンドレイジング

冬の寄付キャンペーンに32名の方から

408,100円のご支援

SRHRプログラムを対象とした

クラウドファンディングへ57名の方から

2,308,000円のご支援



## 日本 チャリティーオークションに79名の方がご協力

2024年度は、通年でアフリカ子ども支援SDGsキャンペーンを実施いたしました。みなさまからは、サイン入りの私物や色紙など貴重なお品物をご提供いただき、合計落札額7,212,514円を寄付としてお預かりし、現地に支援を届けることができました。





日本

PLAS日本事務局・役員



代表理事

門田 瑠衣子



事務局長・理事

小島 美緒



海外事業  
マネージャー

藤原 祐希



海外事業  
プログラムオフィサー

秋本 真央



海外事業  
アシスタント

戸谷 里歩



広報・コミュニケーション  
マネージャー

石田 彩華



国内事業・総務担当

藺森 絢子



チャリオク営業担当

小澤 牧子



チャリオク営業担当

入内島 朋実



チャリオク営業担当

藤井 美有



インターン

木村 涼乃



インターン

佐々 俊之



インターン

山本 麗央



インターン

内田 真琴



インターン

柿谷 美里



インターン

菅野 彩



インターン

近藤 佑磨



インターン

和田 はおり



インターン

朱 思黙



インターン

原田 萌花



インターン

井田 圭亮



インターン

金 祉佑



インターン

根岸 和史



副代表理事

一宮 暢彦



理事

赤尾 邦和



理事

鶴見 和雄



理事

横山 裕司



監事

矢崎 芽生



監事

藤本 俊明



## PLASケニア事務所



トビアス



パメラ

## パートナー団体 ビアジェンコ



代表  
ベンソン



コーディネーター  
ヒラリー



カウンセラー  
ポウリン



カウンセラー  
エマ



フィールドオフィサー  
ベナード



フィールドオフィサー  
パンボ



コーディネーター  
ダン



フィールドオフィサー  
ケネス



会計士  
リスパー



フィールドオフィサー  
ヘンリー



フィールドオフィサー  
ウェンディ



## パートナー団体 ギバー



代表  
スーザン



カウンセラー  
シルビア



カウンセラー  
スーザン



カウンセラー  
ハリエット



プログラム  
コーディネーター  
レイチェル

## パートナー団体 カユンガ



代表  
ジョイ



秘書  
フィレスター



会計担当  
ジェシカ



## 海外事業

### 新プログラムの始動と、現地との絆を強くした1年

今年度はウガンダの新しい地域で新たなプログラムがスタートしました。PLASでは8年ぶりとなる新パートナー団体のギバーと協働するRISE（貧困家庭への養鶏による経済的自立支援と相談・カウンセリング支援）プログラムです。また、新たな事業分野である10代の子どもたちを対象としたSRHR（性と生殖に関する健康と権利）の事業も2年目を迎えました。

さらに、ウガンダ・ケニアに7年ぶりとなる代表、事務局長の渡航が叶い、現地行政と現地パートナー団体との関係者会議や中期計画ワークショップを通し、組織強化はもとより、パートナー団体との絆をより強固にした1年でもありました。

PLASでは「あげる支援ではなく、つくる支援」を大切に活動しています。これからも、現地の家庭やパートナー団体がPLASから自立して活動を継続していけるよう事業支援とともに組織強化にも取り組んでいきます。

事業に参加しようと思った理由は、もっと自分自身を理解しようと思ったからなんです。

自分を大切にするためのSRHRを学べたことで、今、私は自分を誇りに思っています。

ジャイルさん（15）



# 子ども・若者の望まない妊娠を防ぐSRHRプログラム

## 10代の子どもの望まない妊娠を防ぐための事業2年目

目的	若者が自分の体と未来を自分で決められるように
地域	ケニア共和国ホマベイ郡スバ準郡
受益者	ピアエデュケーターの保護者21名、若者21名 ピアエデュケーターの啓発活動に参加する若者720名
期間	2023年6月～現在

パートナー団体と協働して、SRHR（リプロダクティブ・ヘルス・ライツ：性と生殖に関する健康と権利）に関心を持つ10代の子どもたち21名をピアエデュケーターとして育成し、彼らの地域への啓発活動を後押ししてきました。

また、若者が避妊具にアクセスできるよう、必要な物資を毎月ヘルスセンターや薬局に提供しています。

さらに、SRHRの研修や啓発活動の実施に際して、効果的な教育を行うためにピアエデュケーター向けとカウンセラー向けのマニュアルやポスターを作成し、カウンセラーへの研修も実施しました。地域での教育活動がより効果的に広がることを目指しています。



### 地域の若者たちによるSRHR教育の実施

ピアエデュケーターたちは、妊娠、避妊、性感染症、パートナーとの関係性、性暴力などについて研修を受け、その知識を地域の学校や医療施設で実施したセッションを通じてピア（仲間、友達、クラスメイト）に伝えてきました。彼ら自身が地域のSRHRの課題に対してアクションプランを計画し、実行することで、自信を持って自分やパートナーの健康と尊厳を守る行動を取れるようになることを目指しています。学校での性教育が限られているなかで、この活動はセッションを受けた生徒たちや教師から高く評価され、地域においてSRHRに関する知識を学ぶ貴重な機会となっています。

また、今後は性に関する対話がタブー視されていた家庭や学校、地域においても性教育の重要性を広めるため、保護者向けアクティビティやステークホルダーを集めた会議を実施します。これにより、保護者や地域の大人たち、教師、行政関係者などが協力し、地域全体で課題解決に取り組むことを目指します。

### 若者たちに明るい未来を

実践的なスキルで  
早すぎる妊娠を防ぐ

ホマベイ郡では、性教育の不足が原因で10代の妊娠、学校中退、HIV感染が広がっています。PLASと一緒に21人の若者を育成し、彼らが他の若者を指導する活動を展開しています。これまでに703人にコンドームや緊急避妊薬を提供し、性教育の重要性を広めました。しかし、10代の妊娠の75%以上が性暴力によるものであり、今後は実践的なスキルとキャリア支援を強化し、若者が未来を切り開けるようサポートしていきます。私たちの目標は、地域課題を解決し、若者のより良い未来を支援することです。

ピアジェンコ  
プログラム  
コーディネーター  
ダン



### 「早すぎる妊娠」をなくしたい

子ども達とパートナー団体と  
ともに歩む

入職して初めての出張で、ピアエデュケーター達の研修に参加しました。彼らは夏休み中にもかかわらず7時間に及ぶ研修に真剣に向き合い、自分や仲間を守る方法、さらにこの活動を地域にどう広げていくかを熱心に議論していました。その姿をみて、この地域で「早すぎる妊娠」が彼らにとって身近であることを実感しました。豊富な知識と熱い思いを持って彼らを支えるパートナー団体のスタッフ達と、子ども達の未来を変えていくために全力で取り組んでいきます。

海外事業担当  
秋本 真央





## 自分の未来を信じる力

### 荒野から、諦めずに継続した先に得たもの

ケニアで実施しているFLOWERプログラムでは、子どもと保護者の未来をつくるためのカウンセリングと、農業支援による経済的自立支援を50家庭に届けました。参加者のひとり、ローズさんは孫のラベンダーさんをはじめ6人の子どもと孫を育てています。

乾季にも関わらず畑はきれいに整えられ、ささげ豆、キャッサバ、ドードー（在来葉物野菜）、金時豆、とうもろこしなどが一面に植わっていました。豆やとうもろこしは自家消費に回し、週に1回、収穫した葉物野菜を担いで市場に売りに行きます。貯蓄は現在7,000シル（約7,839円）あり、「教育費の支払いに使うの」と誇らしげに答えます。

4年前のプログラム開始時から徐々に畑と作付面積を広げてきました。「畑のこの部分は私が作ったのよ！」夏休みで居合わせたラベンダーさんも言いました。「将来の夢はケニア防衛軍に入ること」中高等学校の就学継続率が32.5%の同地域で自然と、学校卒業後の夢を語るようになりました。

自分で石取りして耕して畑を作ったの。畝を作って、種を植えて。農業が上手にできるとわかったので、高校の選択授業も農業を選んだ。

将来の夢はケニア防衛軍に入ること！あと2年で試験なので、頑張らなくちゃ。

ラベンダーさん（16）

# 親子で描く夢を農業で切り拓くFLOWERプログラム

## JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）

目的	子どもたちが教育を受けられ、子どもと保護者が前向きな将来を計画できるように
地域	ケニア共和国ホマベイ郡旧ビタ準区
受益者	保護者50名、子ども200名
期間	2020年4月～2024年9月

足掛け5年実施してきたJICA草の根技術協力（草の根パートナー型）のエイズ孤児を抱える貧困家庭の経済的自立支援と相談・カウンセリング支援（FLOWER）プログラムが2024年9月に終了を迎えました。プログラム開始直後にコロナがあり、プログラム内容の一部を感染症対策等に変更し、プログラムを継続しました。子どもと保護者への7回ずつのカウンセリングを経て、農業研修、農業用フェンス設置とロバの配布、農業による生計向上を実施してきました。

プログラム地の中高等学校進学率は42.0%、就学継続率は32.5%の中地域内でも特に脆弱な家庭を対象として同プログラムによる中高等学校の進学率は100%、2年後の就学率は93%で、プログラム介入による顕著な進学率・就学率の向上が見られました。また、自営農業による2か月の収入はプログラム開始時の100シル（約117円）から2,996シル（約3,505円）へ大幅に増加、貯蓄残高も事業の経過とともに増加傾向にありました。



カウンセリングや農業による生計向上を経て、保護者の自己肯定感、ストレスレベル改善も向上しました。また、周りや自分自身によるHIV差別の数値も下がり、収穫を大きく上げる農業技術や知識を得た参加者が村内でも頼りにされつつあります。

子どもたちに関しては、高い進学率と就学率に加え、家庭環境への満足度、自己効力感、将来就きたい仕事に関する情報把握などが大幅に向上しました。成績が上がり高い偏差値の国立中等学校へ進学できたことにより、村の中のロールモデルになっているケースもあります。周りからの評価とそれによる自身の家族への評価が向上してくることで、さらに子どもたちの自己肯定感が上がっていくことが予想できます。

## 地域を変えたFLOWER

地元住民とともに築く  
持続可能な未来

FLOWERは、私たちの地域に大きな変化をもたらしました。50人もの子どもたちがキャリアカウンセリングを受け、自分たちの未来についてより良い判断ができるようになりました。また、支援を受けた家庭の収入が向上したことで、経済的な安定を得られる家庭が増えました。そして、このプログラムに関連する雇用が地元住民によって担われたことにより、地域全体にとって貴重な雇用機会が創出されました。地域住民の生活を確実に向上させ、持続可能な未来を築く素晴らしい実例だと感じています。

ピアジェンコ  
代表  
ベンソン



## PLASと共に進める

### 地域支援

現地関係者からの評価と支援

私たちは、地域社会の持続可能な発展を支えるPLASの活動を高く評価しています。家庭菜園やロバの提供、地域住民へのトレーニングとカウンセリングにより、地域の人々が野菜や果物を自分たちで育てられるようになり、食べ物に困ることが少なくなりました。また、余った収穫物を販売することで、困っている家庭の子どもたちの教育費が賄われ、中退する子どもたちも減っています。この取り組みがさらに広がるよう、私たちは引き続き全面的に支援し、地域を守っていきます。

Gembe East地域  
シニアチーフ兼  
内務・国民調整省  
ジャスティス





## 自分らしく生きる自信を持つ

### FLOWERで大きく変わった生活と未来

4人の子どもたちと暮らすグレースさんは、このFLOWERプログラムを通じて生活が大きく変わりました。プログラムで設置したフェンスで囲まれたキッチンガーデンを誇らしげに見せてくれるグレースさん。「最近の収穫では1,000シリングしか稼げなかったけど、その前は週600、月2,000シリングくらい稼いでいたの」と話し、現地スタッフからは「1,000シリングも稼げたの!？」と驚きの声が上がりました。

さらに、配布されたロバが水運びの負担を大幅に軽減したことも嬉しそうに話してくれました。以前は子どもたちと一緒に水を運ぶ日々でしたが、ロバの助けでその時間が節約され、家族全員にゆとりが生まれました。その結果、子どもたちは勉強に集中できるようになり、成績も向上。自由になった時間を活用して、漁のための網修理という新しいビジネスを始めることもでき、収入の幅が広がったと自信に満ちた表情で語ってくれました。

FLOWERがもたらしたのは、生活の質の向上だけでなく、グレースさんの自己肯定感を高める大きな力となりました。

このプログラムで配布してもらったロバのおかげで、時間に余裕ができたの。それで、新しいビジネスを始めることもできたわ。

セカンダリースクールに通う息子のために学校の近くに家を借りることができるようになったのよ。これまでは10kmも離れた学校まで通学しなきゃいけなかった息子が、今は勉強に集中できているの。

グレースさん (51)

# 親子で描く未来への道を養鶏で切り拓くHOPEプログラム

## HOPE2期、新たな世帯への支援開始

目的	子どもたちが教育を受けられ、子どもと保護者が前向きな将来を計画できるように
地域	ケニア共和国ホマベイ郡旧ビタ準区
受益者	HOPE 1期：保護者15名、子ども60名 HOPE 2期：保護者20名、子ども80名
期間	2022年3月～現在

2024年8月から、HOPE2期がスタートしました。新たに選ばれた20世帯が受益者として参加し、パートナー団体のスタッフ達が現状を把握するためのベースライン調査とプログラムのオリエンテーションを丁寧に行いました。毎月、保護者と子どもそれぞれにカウンセリングを実施し、保護者には教育の大切さや子どもとの接し方を、子どもには将来の夢や目標達成に向けたキャリアカウンセリングを行い、サポートしています。今後は、養鶏のための鶏小屋建設や研修も始まり、経済的自立支援と相談・カウンセリング支援の2本柱で進めていきます。



フローレンスさんは夫に先立たれ、15歳の娘が生んだ孫を含む子ども5人を1人で養っています。プログラムに参加できることを大変喜び、養鶏にもとても積極的です。PLASスタッフが訪問した時も暖かなハグで迎え入れてくれる素敵な人です。

# より多くの子ども達と地域へ支援を広げるBLOOMプログラム

## 地域の未来を変える新たなプログラムに挑戦

目的	子どもたちが教育を受けられ、子どもと保護者が前向きな将来を計画できるように
地域	ケニア共和国ホマベイ郡旧ビタ準区
受益者	保護者80名（地域コミュニティ4組織より選定） 子ども最大200名（4校4クラスより）
期間	2024年10月～現在

2024年9月に終了したFLOWERで確立した「農業支援」と「相談・カウンセリング支援」の手法を、さらに多くの人へ広げるためのプロトタイププログラムとして、新たにBLOOMプログラムが始まりました。

FLOWERではカウンセラーたちが各受益者世帯を訪問し、1対1のカウンセリングを行いましたが、BLOOMでは、農業を営む地域コミュニティ団体を対象に、グループ形式でのカウンセリングを実施します。また、農業の専門家を招いて研修を行い、参加者が新たなスキルを習得することで、経済的自立を支援し、研修で得た知識を団体内で広めてもらうことで、波及効果を生み出す仕組みを目指しています。また、子どもたちへの支援も、1対1から集団形式へとシフトし、選定された学校4校・4クラスを対象に、夢や目標を描く力を育むカウンセリングを実施します。

これにより、より多くの子どもたちにサポートを届けます。よりたくさんの人々へ確実に支援を届けるための取り組みを、パートナー団体のスタッフ達とともに新たに確立していきます。

## 顔の見える支援と、手を繋いでゆく支援と

### これからに向けたアプローチ

2024年度は新しいプログラムが2つ作られ、新しい地域での活動が始まり、新スタッフが入り、新たな風が吹き込んだ年でした。これまでは年に4回渡航しているうちに参加者ほとんどの顔と名前が一致するようなプログラムでしたが、少しずつそれぞれが手をつなげ合うような、多くの人たちへのアプローチも始まっています。どのようなアプローチであれ、これからもPLASの現地と「ともにつくる」支援をパートナー団体と、そして支援者のみなさんと行っていきます。

海外事業  
マネージャー  
藤原 祐希





## ウガンダ

# 親子で描く未来への道を養鶏で切り拓くRISEプログラム

「あげる」支援でなく「ともにつくる」支援を広げていく

目的	子どもたちが教育を受けられ、子どもと保護者が前向きな将来を計画できるように
地域	ウガンダ共和国ムコノ県
受益者	保護者20名、子ども80名
期間	2024年6月～現在

このプログラムはひとりひとりだけでなく、私たちのコミュニティにとっても重要です。

家族全員、とくに子どもたちが、人生とは何か、将来の夢とは何かを理解するのに役立ちます。

オドンさん（48）

PLASとして8年ぶりに新たに事業を共にする現地パートナー団体のギバーが加わり、2024年4月から地鶏を使った小さな養鶏での経済的自立と子どもと保護者への相談・カウンセリング支援プログラムがウガンダ共和国ムコノ県で開始しました。

ムコノ県は首都カンパラの隣に位置し、貧富の差が激しい地域です。地域の中でも脆弱な受益対象の20家庭は6割がシングル親家庭、保護者の7割が小学校を中退しています。RISEプログラムでは、パートナー団体のギバーとともに、PLAS独自の子どもが将来の夢（キャリア）を描けるように心理的・学術的・情報を子どもと保護者双方にサポートしていくカウンセリングを通じた相談・カウンセリング支援を行います。また同時に、繁殖が可能で地元で卵・鶏肉両方の需要がある地鶏を用いた養鶏による経済的自立を図ります。

# 農業でHIV陽性家庭と子どもたちの未来を拓く SHINEプログラム

## 食になり、収入になり、自分を信じるちからになる

目的	農業で栄養改善と生計向上ができるように
地域	ウガンダ共和国ジンジャ県
受益者	SHINE 1期：保護者40名、子ども146名 SHINE 2期：保護者20名、子ども68名 SHINE 3期：保護者20名、子ども60名 SHINE 4期：保護者20名、子ども60名
期間	2018年～現在



HIV陽性者が自分たちで助け合う組織として、村のお母さんジョイが作った組織がカユンガです。2024年度は3期、4期の合わせて40名のシングルペアレントを対象に支援プログラムが行われました。

在来野菜を安定して栽培する知識・技術の習得をし、グループで広大な畑を維持し、在来野菜のゴベ、ドードー、そして、とうもろこし、さつまいもなどを栽培・収穫・自家消費し、余剰分を販売しています。2023年度にはすでに事業2年目であった3期目のお母さんたちへの農業研修と栄養研修を行い、現地の農業オフィサーによる継続的な農地モニタリングを通しグループ農業を維持しました。

また、月に2回のグループ貯蓄も行われ、コツコツと集めた180,000シルでグループ農業のための農地を借り、プログラム終了後への活動継続に向けた取り組みが自主的に取られました。さらに農地代を払った後も貯蓄が余ったので、「残りは新しく始まる学期のための教育準備費にしたのよ」とカユンガ代表のジョイ。毎回几帳面に更新される貯蓄ノートにもしっかりと、学期準備費の記載がありました。2024年1月に開始した4期目も、生活用水と農業用水を兼ねる水タンクの設置、農具配布を終え、農業研修を開始してグループでの畑にとりかかっています。

### 知識を得ること

HIV陽性のひとり親家庭に大切なものカユンガは、2024年からSHINEプログラム4期目をPLASと開始しました。先日グループ貯蓄を使ってペンやノートなど子どもたちの新学期の準備を行いました。良い雨季でさつまいもをはじめ、たくさんの野菜が育っています。PLAS代表のRuikoをはじめ、関係している方すべてに感謝しています。今後もPLASが私たちのようなひとり親家庭でHIV陽性のコミュニティを支援し続けてくれますよう。なぜなら今、彼らはどうやって野菜を育てるか、そして栄養バランスの良い食事とは何かを知ることができているのです。

カユンガ代表

ジョイ



ギバー代表  
スーザン

### コミュニティに生み出されつつある変化

#### RISEプログラム1年目での地域の変化

今年、ギバーはPLASとウガンダのムコノ県の脆弱な子どもたちと家庭へRISEプログラムを届ける機会を得ました。このプログラムを通して初めのころはとても内気で控えめだった子どもたちの自己肯定感を高めることができている。また養鶏に関する知識がコミュニティ内で向上し、多くの保護者が養鶏に関する高度な知識を身につけました。私たちのコミュニティに大きなインパクトを作り出しているPLASとのパートナーシップに感謝しています。今後のさらなる協働も楽しみにしています。



## 国内事業

### 中期計画達成に向けた振り返りと、新職員の参画。

2024年度は、新しく2名の職員がPLASに仲間入りしました。4月よりチャリティオークション営業専任担当として小澤が、7月に海外事業担当として秋本が入職いたしました。

新しい仲間たちとともに、本年度は2025年に最終年度を迎える中期計画について、目標や戦略の共有、振り返りを行いました。職員全員で共通の理解を深めることで、組織全体が一丸となって、目標達成に向けて協力し合える体制を作りました。

海外事業、国内事業それぞれに課題はありますが、今年度の活動を通じて、計画の実現に向けて着実に前進することができました。PLASらしく、周囲に波及するエネルギーを大切に、一歩ずつ進みながら、最終的な目標に向かって歩んでいきます。

### Positive Livingの輪

PLASから広がる前向きな伴走支援  
 PLASの名に”Positive Living”とあるように、ポジティブに生きる伴走支援をPLASでは行っています。HOPEプログラムでは多くのママたちが受動的な姿勢から「ビジネスを成功させるんだ!」と積極的な姿勢へ変化していきました。SRHRプログラムでは性教育に恥ずかしさを感じていた子どもたちが今や人前で堂々と性教育を実施できるようになりました。さらにこの伴走支援の輪はパートナー団体や、PLAS職員・インターン生、サポーターのみなさまにも広がっており、様々な方から前向きな思いを受けることができました。PLASと共に歩んだ日々は今も私の宝物です。

海外事業  
 アシスタント  
**戸谷 里穂**





# 日本 イベント

## ボランティアイベントを開始、 5年ぶりにグローバルフェスタにも出展！

今年から気軽なボランティアを通して、アフリカやPLASを身近に感じてほしいという思いからプチPLAというボランティアイベントを開催しました。9月には、5年ぶりに、グローバルフェスタJAPAN 2024に出展いたしました。ブースでは、ボランティアさんやインターンとともに活動紹介、アフリカの地図づくりなどを行いました。中でもケニアやウガンダの女性たちが身にまとっている「カンガ」と呼ばれる布を使ってつくる、くるみボタンのワークショップは大人気でした。



## チャリティーオークション

### 79名のみなさまにご協力いただきました！

今年度は通年でチャリティーオークションを実施、合計79名の方にご協力いただき、7,214,514円を現地への支援としてお預かりすることができました。多くのご協力に感謝いたします。

【全ご協力者様（順不同・敬称略）】

### ”アフリカ子ども支援SDGsキャンペーン”

（2023年10月～2024年9月開催）

関根麻里、萬波ユカ、真島ヒロ、マーク・パンサー、横溝菜帆、梶裕貴、高橋ヒロム、矢神久美、璃香子、咲妃みゆ、中森明菜、ガチャピン・ムック、大山加奈、福山潤、細貝圭、森進一、GYUTAE、宮本充、一青窈、松平健、田中瑞稀、和田由紀子、林琴奈、原田ちあき、稲村亜美、coalowl、二代目尾上右近、梶浦由記、西田優大、桜庭ななみ、周東佑京、川瀬晃、高木菜那、高木美帆、カジサック、貴島明日香、石田ひかり、ネゴシックス、爆笑問題、川浦良枝、松田宣浩、伊原六花、阿部桃子、シゲタサヤカ、Shiomi Wada、小林幸子、藤岡弘、西田ひかる、松田悟志、平川大輔、比江島慎、高橋尚子、紺野美沙子、梅沢富美男、岩隈久志、豊ノ島、岩渕真奈、中山エミリ、播戸竜二、野口啓代、三浦友和、大宮エリー、七野ワビせん、岩明均、ひうらさとる、かっぴー、田中雅美、浦浜アリサ、渡辺真理、石田純一、羊文学、照英、石川真佑、廣津留すみれ、神野大地、吉田栄作、TAa、326、井手上漠



チャリティーオークション  
営業担当

小澤 牧子

### さまざまな想いが繋がり大きな支援へ

#### チャリオク営業担当の想い

国内外で活躍し影響力の大きい著名人がチャリティーオークション参加を通じPLASに賛同・協力してくださる影響力は大きく、ご本人のSNS発信の力でその著名人を応援する方々にも波及していく様子は業務を進めていてとてもやりがいを感じる瞬間です。寄付やチャリティーがそれほど浸透しない日本で、NGOの活動を理解する良い機会に繋がっていると思います。

# PLAS DAO

## 「寄付×トークン」の新しい挑戦

Web3・SDGs時代の「寄付×トークン」の可能性を切り拓き、アプリの子どもの未来をつくるためにFiNANCiE（フィナンシェ）にて、コミュニティをオープンし、トークン発行を行いました。

日本の個人寄付市場は1兆2,000億円。NPOへの寄付やふるさと納税など、少しずつ寄付は私たちの生活に身近な存在となってきました。寄付がNPOの活動を広げてくれる一方、NPOの資金調達の選択肢は限られています。例えば、スタートアップのように株式で大きな資金調達ということはNPOにはできません。

しかし、NPOがトークン発行という形で寄付を集められたらどうでしょうか。これまで寄付に流れてこなかった大きな資金がNPOに流れ、社会課題の解決が加速かもしれません。そんな思いで始まったのがPLAS DAOです。

2024年3月、「こんな新しい取り組みに、どれくらいの人たちが参加してくれるのだろう」と、ワクワクと不安の中、トークン発行をしました。結果は、たった1時間半ほどで4,000人の方が計200万円のご支援をくださり、DAOに参加してくださいました。ご寄付をいただきましたみなさまに、心より感謝申し上げます。

初回トークンの販売によるご寄付は、ウガンダとケニアの子どもたちのための事業に大切に活用させていただきます。

どなたでもご参加いただけますので、ぜひお気軽にご参加ください！

### DAOとは？

DAO（Decentralized Autonomous Organization）は、日本語で「分散型自律組織」と訳される、新しい形の組織運営の仕組みです。特定のリーダーや管理者に依存せず、参加者全員が平等に運営に関わることができるインターネットを活用した「自律的に動く組織」を指します。

### トークンとは？

デジタル上の「ポイント」のようなものです。例えば、コンビニなどのお店で買い物をするために使えるポイントを思い浮かべてください。このトークンはインターネット上で特定の価値や役割を持つデジタルの「証」です。PLAS DAOのトークンはデジタル上のポイントのようなもので、PLASを応援する気持ちを表す寄付の「証」です。

### FiNANCiE（フィナンシェ）とは？

新しい形のクラウドファンディングの形で、日本初のWeb3プラットフォームです。支援に対する「リターン」としてデジタルのトークンを受け取ることができます。PLASと支援者のみなさんを「トークン」という新しい仕組みを使ってつないでくれます。

スマートフォンのiOSまたはAndroidで「FiNANCiE」アプリをダウンロードしてはじめることができます。



### 未来の扉を開く挑戦

コミュニティづくりと資金調達の新たな可能性を探る

PLAS DAOの取り組みは、ソーシャルセクターにおける「コミュニティづくり」と「資金調達」の新たな選択肢・可能性を切り拓き先駆的な取り組みになっています。PLASが先導して切り拓いた道を他のNGO・NPOが追随する動きが起きることを願っていますし、これは業界・セクター全体に影響を与える可能性のある意義の大きな取り組みです。CRファクトリーが積み上げてきたコミュニティマネジメントのノウハウを注ぎ込んで今後も支援していきます。

NPO法人CR  
ファクトリー

呉 哲煥さん



FiNANCiEアプリの  
ダウンロードはこちら

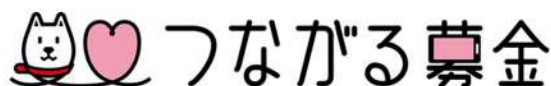
アプリの中で  
「PLAS  
DAO」で検索  
してください。



## ご支援・ご協力いただいた法人のみなさま

### 多様な連携でひろがる可能性

みなさまのあたたかいご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。



(順不同/敬称略)

株式会社バリューブックス、株式会社GME、株式会社STYZ、株式会社BORDERLESS JAPAN、特定非営利活動法人 レッドリボンさっぽろ、free株式会社、LINEヤフー株式会社、ソフトバンク株式会社、かみひとねっとわーく京都、地球愛祭りin京都、パッケージアート株式会社、ピープルポート株式会社、株式会社ブギ、株式会社PR TIMES、株式会社USTUS、株式会社セールスフォース・ジャパン、株式会社トゥーマーカープロダクツ、株式会社エイドル、コングラント株式会社、ブックオフコーポレーション株式会社、株式会社エンパワー

## 助成金・補助金

現地支援活動、組織強化、人材育成など多方面でご支援いただきました

【助成金・補助金一覧（順不同）】

花王ハートポケット倶楽部／連合・愛のカンパ「中央助成」  
／リコー社会貢献クラブ・FreeWill／風に立つライオン基金  
／特定非営利活動法人MUKWANO／Panasonic NPO/NGO  
サポートファンド for SDGs（海外助成）／（外務省主催）  
NGOインターンプログラム／（外務省主催）NGOスタデ  
ィ・プログラム／JICA草の根技術協力事業





## 多くの仲間と、ともに

### PLASを支える仲間たちの声

PLASの活動には多様なバックグラウンドの方たちが関わっています。ご支援者のみなさまをはじめ、理事やインターン生などさまざまな関わり方で活動に携わっていただいています。

2024年度もたくさんのご支援・お力添えをいただきました。心より感謝申し上げます。



#### 「つくる」支援を広げるために

国際協力について手を動かして学びたいと思い、「つくる」支援に共感しPLASに応募を決めました。HPやSNS更新・寄付キャンペーンに携わり、「つくる」支援の輪を広げ、現地に届けられるように試行錯誤しながら取り組んでいます。インターン生の裁量が大きく責任感が求められる一方で、自分が貢献できている実感を持つことができおり、大きなやりがいがあります。

広報・コミュニケーションインターン 柿谷美里さん



#### 企業にも活かせる、新しいチャレンジへの柔軟さと実行力

10年ほど前にプロボノとしてイベント用パンフのデザインをお手伝いさせていただいたのが、PLASとのご縁の始まりでした。PLASの、常に新しいことに積極的に取り組まれているその柔軟さと実行力には驚かされっぱなしですが、ロジカルで鋭いビジネス施策の数々もハッとさせられることばかりで、実際にわたしたち自身の事業でも応用させていただいております。

マンスリーサポーター 石黒亮さん



#### PLASから学んだ「見守る姿勢」は子育てにも

PLASを知ったのは友達経由でした。支援内容を聞けば聞くほど、「なんて現地の身の丈にあった親身な支援なんだろう」と心を射抜かれ、一人一人に寄り添い、一歩一歩を伴走しているんだな、とますます応援していきたくなりました。

自分の子育てでも過度に手を出すのではなく、成長を見守っていくのが本人のためになるんだな、と置き換えてPLASの活動に学ばせてもらってます。

マンスリーサポーター 関口敦子さん



# 「エイズ孤児支援」から 「取り残された子どもたち」へ

PLASは、設立時から約15年間は「エイズ孤児支援」を軸として活動してきましたが、2020年からは「取り残された子どもたち」に焦点を広げ、新しいビジョンとミッションを掲げて生まれ変わりました。

ここ数年でPLASはリブランディングを進め、2024年12月には新しいロゴを発表しました。



PLASに関わるすべての人が自分の足で未来に向かって前向きに歩んでほしいという願いを込めました。ロゴには笑顔で歩む姿、オレンジ色の明るさ、そしてレッドリボン由来の「赤い」靴で「エイズ孤児支援」の原点を象徴するデザインとなっています。

## これまでの軌跡を大切にしながら、 新たなフェーズへ



これまでHIV/エイズや貧困など様々な影響から社会から取り残された子どもたちの就学や就労の選択肢を増やすための総合プログラムを「親子支援事業」として確立してきました。



これからは、この事業をさらに拡大して横展開していき、多くの子どもたちやご家庭に支援を届けていきます。また、ケニアとウガンダで新しい現地パートナー団体と協働していくことも目標の一つとしていました。ウガンダではギバーとの連携が開始。次はケニアで新たな現地パートナー団体との協働を開始すべく、調査を続けています。



新たな事業ドメインとなっている望まない妊娠の課題への取り組みも着実に進めています。性に関する教育事業を通じて、望まない妊娠を防ぎ、子どもたちが自信を持って未来を選択できる力を育むプログラムは、現在、現地の公立学校や医療施設との連携が始まり、実績や経験を積みながら、これから事業をどう拡大、発展させていくかの戦略を深めていく段階にあります。

これからのPLASには、さらなる挑戦が待っています。

新しい取り組みの中で見えてくる可能性や、現地パートナー団体や地域社会との連携によって生まれる新しいアイデアの数々が、子どもたちやその家族に希望を届けます。

# 活動計算書

2023年10月1日～9月30日まで

(単位:円)

科目		予算	決済	予実	
経常収益	受取会費 正会員受取会費	170,000	90,000	52%	
	受取寄附金 受取寄附金	24,298,500	18,767,063	77%	
	受取助成金等 受取民間助成金	4,388,200	7,323,187	166%	
	事業収益 事業収益	13,438,000	12,486,000	92%	
	その他収益 受取利息	0	3,927	-	
	経常収益計	42,294,700	38,670,177	91%	
経常費用	事業費	普及啓発事業	7,669,127	10,626,075	138%
		総合的支援事業	28,820,882	24,477,856	84%
		事業費計	36,490,009	35,103,931	96%
	管理費	管理費計	5,592,860	2,906,439	51%
	経常費用計	42,082,869	38,010,370	90%	
当期経常増減額		211,831	659,807	311%	
税引前当期正味財産増減額		659,807	659,807		
法人税、住民税及び事業税		70,000	70,000		
当期正味財産増減額		589,807	589,807		
前期繰越正味財産額		18,791,009	18,791,009		
次期繰越正味財産額		19,380,816	19,380,816		

## より広い支援を届けるために

### 新たなプログラムがはじまり、組織強化に動いた1年

2024年度はみなさまのご支援に支えられ、現地ではウガンダで新たなプログラムを開始し、ケニアではより広域に支援を届けるための新たなアプローチが始まりました。国内では新たに職員2名が参画し、活動の横展開や組織強化に向けた取り組みを後押ししています。経常収益は、法人寄付やチャリティオークションが伸び悩み、100%を超えることはできませんでしたが、予算達成率は91%となり、経常収益の49%が個人・法人のみなさまからのご寄付で占められました。心より感謝申し上げます。

来年度は、PLAS設立20周年の節目の年です。取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指すために、みなさんと一緒にアフリカの子どもたちの未来をつくっていきましょう。引き続きご支援・応援のほどどうぞよろしくお願いいたします。



事務局長  
小島 美緒  
Mio Kojima

# 貸借対照表

2024年9月30日現在

(単位:円)

科目		金額	科目		金額		
資産の部	流動資産	現金預金	22,067,361	負債の部	前受金	938,000	
		流動資産合計	22,067,361		未払消費税等	326,600	
	固定資産	有形固定資産	工具器具備品		24,182	未払金	1,283,174
			有形固定資産計		24,182	未払法人税等	70,000
		固定資産合計	24,182		預り金	92,953	
	資産合計		22,091,543		流動負債合計	2,710,727	
					固定負債	固定負債合計	0
			負債合計		2,710,727		
			正味財産の部	前期繰越正味財産	18,791,009		
				当期正味財産増減額	589,807		
			正味財産合計		19,380,816		
			負債及び正味財産合計		22,091,543		

# 監査報告書

## 監査報告書

特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS  
代表理事 門田 瑠衣子様

2024年11月27日  
監事 矢崎 芽生



私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS の2023年度(2023年10月1日～2024年9月30日)の業務及び会計の状況について監査を実施いたしました。

理事の業務執行に関する監査にあたっては、重要な会議の議事録その他の重要資料を閲覧するほか理事から事業の報告を聴取しました。また財産の状況に関する監査にあたっては、財務諸表等(活動計算書、貸借対照表、財務諸表の注記及び財産目録)と証拠書類等との照合、質問等の合理的な保証を得るための手続を行いました。

監査の結果、理事の業務執行は、法令、定款及び事業計画に基づき適正に執行され、不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないことが認められました。

また、法人の財産の状況は、NPO法人会計基準に準拠して、財務諸表等に適正に表示されているものと認められました。

以上



# ともにつくる アフリカの未来

Building Africa's Future Together

## 特定非営利活動法人 PLAS

〒150-0012

東京都渋谷区広尾5-23-5

長谷部第一ビル402号室

03-6821-1758

info@ngo-plas.org

設立：2005年12月

SNSでPLASとつながる



PLAS

PLAS DAOでつながる



アプリの中で  
「PLAS DAO」と  
検索してください。

